

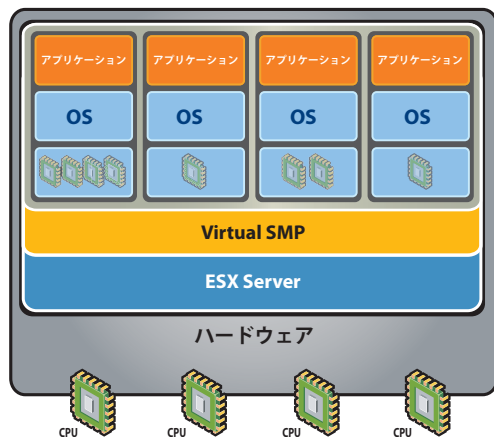
VMware Virtual SMP

仮想マシンに対するマルチプロセッササポート

概要

VMware® Virtual SMP (Symmetric Multi-Processing) は、ひとつの仮想マシンで複数の物理プロセッサを同時に使用できるようにすることで、仮想マシンのパフォーマンスを向上させます。VMEUウェア固有の機能である Virtual SMP™ では、ほとんどのプロセッサの仮想化、および多大なリソースを必要とするデータベース、ERP、CRM などのエンタープライズアプリケーションの仮想化が可能です。

新機能 – 4-Way Virtual SMP。Virtual SMP の機能は、VMware Infrastructure 3 では 2 個のプロセッサ対応から 4 個のプロセッサ対応に拡張されました。



VMware Virtual SMPは、1つの仮想マシンで最大4個のプロセッサを同時に使用できることにより、仮想マシンの処理能力を向上させます。

VMware Virtual SMP の使用方法

Virtual SMP を使用することにより、次のことが可能になります。

- **多大なリソースを消費するアプリケーションを仮想化環境で実行。** データベース、ERP、CRM などのエンタープライズアプリケーションを仮想マシンで実行します。
- **新しいハードウェアを追加することなく、コンピューティング環境を容易に拡張。** ひとつのワークロードに対して複数のプロセッサが連携して機能するようにすることで、既存リソースの使用率が向上します。
- **ソフトウェアの開発と導入を向上。** より実際に近い構成で迅速かつ容易に導入できる開発環境とテスト環境を構築します。

VMware Virtual SMP の仕組み

VMware Virtual SMP は、単一の仮想マシンが最大 4 個の物理プロセッサ (CPU) を利用できるように拡張することを可能にします。これらのプロセッサは同じメモリを共有し、メモリ内のタスクの場所に関係なく任意のタスクに対して機能します。Virtual SMP は、アイドル状態ではない仮想プロセッサを同期的に同時にスケジュールするとともに、プロセッサのオーバーコミットメントを可能にします。アイドル状態の仮想プロセッサは、仮想マシン内で実行中のゲストオペレーティングシステムでスケジュール解除し、別のタスクに使用できます。Virtual SMP は、使用可能なプロセッサ間で処理タスクを定期的に移行することで、ワークロードを再分散させます。Virtual SMP には、システム上のオーバーヘッドを最小化するための組み込みのコントロールがあります。

Virtual SMP の購入方法

- 2 ウェイおよび 4 ウェイの Virtual SMP は、VMware Infrastructure 3 スタンダードと VMware Infrastructure 3 エンタープライズに含まれています。
- Virtual SMP は、単品の製品としてはご購入いただけません。

製品仕様とシステム条件

Virtual SMP を使用するには VMware ESX Server が必要です。製品仕様とシステム条件の詳細については、Web サイト (http://www.vmware.com/jp/support/pubs/vi_pubs.html) を参照してください。